

◆ 巻頭言

介護という交響曲

くさか 里樹

漫画はフィクションです。

現在、介護をテーマにした漫画を描いていますが、主人公は作者の都合のいいように問題を解決できます。でも現実社会ではそうはいきませんよね。自分の意見や気持ちを他人に伝えるのはとても難しく、思う通りにはなりません。介護とはまさに日々そういう難題に取り組むお仕事。生きてきた時代も価値観もまったく違う、人生の大先輩と裸で向きあって、幸せとは何か、という究極の哲学的答えを探すのだから、すさまじく高度なお仕事だな、と感じます。

現場の介護士さんは心理学者顔負けの洞察力を発揮されます。漫画家もかなわないような大爆笑や涙なみだの大感動のドラマを紡ぎ出されます。「すごい！」と驚きつつも、よくよく考えると、それは日ごろ生活の中で普通にやっている人付き合いと同じだったりします。当たり前のことを普通にすることが案外難しいのだそうです。「介護」や「高齢者」が強い偏見にさらされているからでしょうか。

その証拠に、介護は「女性の仕事」と思われがち。家事や育児が女性の役目とされてきたことに根ざす「お世話」という発想なのでしょう。その発想からは、女性はもちろんのこと、高齢者の人格への尊厳は見えません。

私が見聞きしてきた「介護」は、柔軟な発想とユーモアのセンス、アイデアや感受性が必要とされるクリエイターの世界。命の重みを教えてくれる高齢者と無冠のクリエイターたちが共に奏でる力強い交響曲。人の心を惹きつけて止まない魅力があります。

感動のある社会は豊かです。高齢社会と介護は私たちの未来を豊かな方向に導いてくれる力をもっている、と取材を通して感じるばかりです。



PROFILE

くさか 里樹
(くさかりき)

漫画家。高知市内の授産施設に職員として勤務した後、1980年デビュー。日本の老人介護を題材とした「ヘルプマン！」(講談社「イブニング」2003～)は高齢社会の問題点をリアルに描く現代コミックで、高校の教科書でも推薦されている。「高知新聞漫画道場」主宰。「黒潮漫画大賞」「まんが甲子園」「四コマまんが大賞」審査員。